



# NAA NEWS LETTER

Vol.18 2007 AUTUMN

NODA ARCHITECTURAL ASSOCIATION

東京理科大学工学部建築学科同僚会 野田建築会

## 留学だより

現在、サバティカル研修（研究のための長期留学制度）でロンドンに留学されている大宮喜文准教授からお便りが届きました。

夏だというのに袖のないシャツを着た人の横に冬物らしきジャケットを着た人が並んで街角に立っている。雨が降りだしても何事もないように傘をささず皆歩いている。そんな光景をロンドンでよく見かけるが、この理由がよく理解できるようになってきた。

英国ロンドンにあるキングストン大学で研究するようになり6カ月が過ぎようとしている。東京理科大学では、最長1年間の在外研究可能な制度があり、その制度を利用し、キングストン大学で9カ月、残り3カ月は英国内の他の大学へ移り研究する計画である。

キングストン大学は、工学、芸術・デザイン・建築、ビジネス・法学、科学などの学部と、付属研究センターからなる総合大学である。学生数は20,000人程度で東京理科大学と同様の規模である。キャンパスは、ロンドン南西部のキングトン界隈に4カ所点在する。現在、私は応用工学研究センターに所属し、ローハンプトンパール・キャンパスに部屋がある。このキャンパスは、テニスで有名なウィンブルドンテニスコートと目と鼻の先にあり、またリッチモンドパーク（ロンドン最大の公園）にも面している。野田キャンパスと同様、自然環境に恵まれた場所である。

応用工学研究センターは、国際色豊かな研究教育スタッフと博士課程の学生、総勢30名を超えるメンバーで構成されている。英国人以外に、フランス、イタリア、ポルトガル、インド、アルゼンチン、トルコ、カーボベルデ共和国などの出身者がチームを組み、研究成果を上げている。日本政府も海外からの留学生を増やそうと施策を練っているが、東京理科大学もそのような国際色豊かな人々で活気づく日が来るかもしれない。研究室では、研究をはじめ様々な情報を皆から得る毎日である。センター内に私以外の日本人はいないので、日本の情報を興味深く聞いてくれ、また好意的に対応をしてもらっている。

今年12月にはキングストン大学付属の美術館の一室を借りて、東京理科大学とキングストン大学の共催でワンデーセミナーを企画している。東京理科大学の研究や教育の現状報告、日本の建築基準法の説明などを行い、さらに研究・教育の国際化のあり方について英国内の大学の先生方や企業の方にご講演頂く計画である。

これまで短期の海外出張や旅行は経験してきたが、長期の海外生活は初めてである。ロンドンへは4、5回来ているが、文頭に書かせてもらったようなことは、恥ずかしながら意識したことがなかった。これからも貴重な時間を頂いているので、研究・教育をはじめとし、積極的に色々なことを意識しながら体感し、学び、日本へ戻れればと思っている。(90年卒 大宮喜文)

## NAA 賞受賞者からの近況報告

NAA 受賞者：永田乃倫子さん（伊藤研究室卒業）からの近況報告が届きました。

私は現在、東京工業大学真野研究室に所属し、北陸新幹線開通に伴う区画整理事業区域内のより良い住環境づくり提案（長野県飯山市）、「アート&カフェこぐま」（東京都墨田区）で、まち歩きやイベントの手伝い・提案をしています。これらの活動を通し、夢中になれるものを持つ人たちと過ごす時間が格段と増えました。

当然のことですが、どこかに書いてあった言葉ではなく、今までの経験や知識を全て混ぜこぜにして自分なりの考えをひねり出し、自分の言葉で話す・書くことが、以前よりも日常的に強く求められている気がします。自分の発する言葉に説得力を持たせるためにも、現在関わっている人・活動に夢中になりたいと思っています。(07年卒 永田乃倫子)

キャンパス風景  
校舎の多くは低層である





小長谷 亘  
 - 略歴 -  
 1975 年 東京都生まれ  
 1998 年 東京理科大学工学部建築学科卒業  
 2000 年 東京理科大学大学院修士課程修了  
 2000-2005 年 手塚貴晴 + 手塚由比 / 手塚建築研究所勤務  
 2005 年 小長谷亘建築設計事務所設立  
 - 主な作品 -  
 牛久の住宅、U/A オフィス



小園 涼子  
 - 略歴 -  
 1977 年 神奈川県生まれ  
 2000 年 東京理科大学工学部建築学科卒業  
 2002 年 東京理科大学大学院修士課程修了  
 2002-2003 年 都市空間研究室勤務  
 2004 年 - フリックスタジオ勤務

## OB と語る会レポート

7月13日にOBと語る会が開かれました。今回は編集者と建築家の二組にお越し頂きました。

いやいや、編集の作業というのは本当に大変だ。私にとってはこの会報誌というA3判1枚の編集ですら挫折しそうに思うのに、何十ページもの書籍を1冊にまとめるその膨大な作業量は想像しただけでも気が遠くなる。

今回の「OB と語る会」は7月13日、2号館4階オープンスペースにて行われた。毎年行われているこのイベントは各方面（建築に限らず）で活躍されているOBの方を招いて、主に在校生に対して現在の活動を発表してもらう場だ。毎年行われているので、そろそろ呼ぶヒトがいなくなってしまうのではないかと心配になってくるが、どういうわけか今年度から7月上旬と12月上旬の年2回へと回数を増やすことになってしまった。ポスターや会場設営、発表後に行われるパーティの準備など、大学院生を中心として協力しているのだが、毎回バタバタである。しかしながら「語る会」は在校生とOBをつなぐ貴重なイベントであり、何より私自身にとって同世代の活動に刺激を受ける良い機会となっている。それに毎回異なる分野の方々が工夫をしながらプレゼンテーションを行うので、本当に内容が面白い。そんな中、今回レクチャーをお願いしたのは2002年初見研修士卒の小園涼子さんと、2000年小嶋研修士卒の小長谷亘さんだ。

小園さんは、現在フリックスタジオという編集プロダクションで建築関係の誌面編集に携わっているプロのエディターである。雑誌や書籍に限らず、企業の広報誌、カタログに至るまでその仕事は多岐にわたる。

プレゼンテーションでは、普段何気なく手に取っている本がどのようにして生まれているのかを、学生にもわかりやすくスライドを通して解説された。一概に編集といっても、キャスティング、予算、台割り、校正などといった多くの工程があり、大変さをわかっている（つもりでいた）私でさえ、圧倒されるような作業量である。実際に編集に関わられた書籍を例に挙げて、1冊の本が出来上がるまでの試行錯誤が示され、表紙デザインでは何度もサン

プルを作って検討し、どのように決定がなされたかをライブに伝わるように見せてくれた。編集での重要なポイントは「いかにして情報をわかりやすく伝えるか」であると語る。学生はもとより出版担当の社会人が聞いてもタメになる深い内容だった。

小長谷さんは、手塚建築研究所で番頭を務めたのち、2005年から自身の事務所を開設されている建築家だ。実は私と同級生で、仲間内では事務所時代に最もたくさんの建築を建てており経験値が高い。独立してからも自作が雑誌掲載され、これからの活動に期待されている若手建築家である。そんな彼がいかに自作を語るのか、非常に楽しみであった。プレゼンテーションでは、住宅とオフィスビル改装の2つの独立後のプロジェクトを中心に紹介された。「牛久の住宅」では、設計プロセスを交えながらどのように思考が変化していったかを解説。光／ガラスで出来た壁が室内に様々な現象を生み出しており、美しい写真によるプレゼンテーションがなされた。また「U/A オフィス」は4.5m×21m、厚み45mmの巨大な板に穴が開けられて机になっており、従来のワークスペースを反転させて新しい関係を生み出す挑戦的な提案であった。質疑応答では、1年生が「建築事務所は大変だと聞いたのですが？」とおそるおそる質問したところ「死にはしないよ」と答えて会場を沸かせた。少し上の先輩が建築家や編集者として活躍していることに興味津々であったのであろう、パーティが終わっても1年生から両氏への質問は続いた。

(98年卒 佐貫大輔)



プレゼンテーション風景  
 会場では1年生を中心に約60名の学生が熱心に耳を傾けた



左 牛久の住宅  
 右 U/A オフィス  
 Photo by DAICHI ANO



小園さんが関わった  
 企業リーフレット

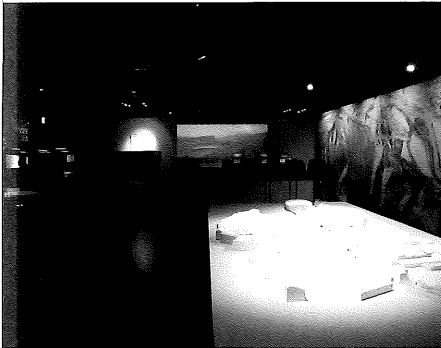
## 奥田研究室のOB 会が開かれました

9月24日に奥田研究室のOB 会が品川のレストランで開催されました。

実は奥田研究室のOB 会は1998年以降、全く開かれていませんでした。昨年18年ぶりに開催されて、やはり懐かしい顔ぶれと再会するのは何度あってもよいだろうと、毎年開催しようということになりました。

昨年はあまりに久しぶりで、皆さん同級生とつもる話をしている時間切れとなってしまいましたが、今年ももう少し幅広く、大先輩と院生が交流するといった風景が見られたように思います。

84年卒の八代さん（類設計室）から奥田先生の昔話などを披露していただいたり、95年卒の宮下さん（竹中工務店）は奥様（98年卒内田さん）とお子さんと一緒に参加されるなど、広がりが感じられました。（89年卒 高安重一）



上 展覧会風景  
多くの模型やアニメーションが展示されている



左 屋外展示風景 プロジェクトの平面を模したテーブルが外部空間を形成する（写真提供：CA t）

## ギャラリー・間：Cultivate 小嶋一浩+赤松佳珠子 / CA t 展 開催中！

小嶋一浩教授がここ数年行っているプロジェクトをフォーカスした展覧会、「Cultivate 小嶋一浩+赤松佳珠子 / CA t 展」が乃木坂のギャラリー・間にて開催されています。

会場では現在進行中の3つの巨大なプロジェクトが展示されています。キルギス共和国の山間 280ヘクタールの広大な敷地に計画中の「中央アジア大学ナリンキャンパス」、マングローブが群生するベトナム・メコンデルタ地域37ヘクタールに計画予定の「ホーチミンシティ建築大学」、東京武蔵村山の日産自動車工場跡地106ヘクタールの敷地に30年かけて計画が進行する「プロジェクト MURAYAMA」。3つのプロジェクトはそれぞれ非常に特殊な敷地条件や設計条件を持ち、何よりいずれのプロジェクトも膨大な広さの敷地の中に展開されていきます。その中で「Cultivate= 耕すこと」をキーワードに、どのように建築を思考することが可能かを問い直すといった意欲的な展覧会です。3つのプロジェクトのうち、「ホーチミンシティ建築大学」は助教の佐貴氏を中心に小嶋研究室で設計が進められています。

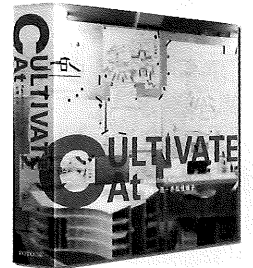
また、展覧会に併せて書籍『CULTIVATE』も同時出版されています。3プロジェクトのプロセスや思考の軌跡を500ページに及ぶ図版やテキストで解説しています。

会場：ギャラリー・間 (TOTO 乃木坂ビル3F  
東京メトロ千代田線乃木坂駅3番出口徒歩1分)

会期：9月14日～11月17日  
(休館日：11/3、11/4を除く日・月・祝日)

時間：11:00～18:00 (金曜のみ19:00まで)

『CULTIVATE カルティベイト』  
小嶋一浩+赤松佳珠子 / CA t 著  
TOTO 出版  
190×190mm 510頁(オールカラー)  
定価2,940 (本体=2,800円+税)

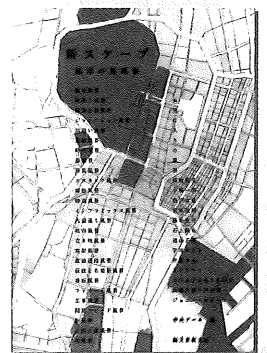


## 中央アーキ編『新スケープ 都市の異風景』刊行！

小嶋一浩研究室出身（00年卒）のユニット、中央アーキ（坂下加代子・松本悠介・上領大祐）編による『新スケープ 都市の異風景』が、誠文堂新光社から発売されました。

東京「らしさ」を秘めた26の風景を、中央アーキが写真とともに読み解く「新スケープ」のほか、小嶋一浩教授をはじめとする注目の建築家やアーティストらが紹介する「お気に入りの風景」などを収録。詳細は<http://www.seibundo-net.co.jp/>まで。

『新スケープ 都市の異風景』  
中央アーキ 編  
B5判 136頁(オールカラー)  
本体1,800円+税



## 会費納入のお願い

現在、野田建築会は財政的に予断を許さない状況になっております。様々な企画やこの会報誌のような情報発信を継続していくのも、皆様の会費納入にかかっています。なにとぞ協力お願い致します！会費納入は同封した振り込み用紙にて行うようお願い致します。（春号にてすでにお支払い済みの方は納入の必要はありませんので、振り込み用紙は同封されていません）

### <編集後記>

今回から会報デザインが大幅リニューアルされました。現役の編集者として活躍されているOB、OGの方々にもご参加頂き、理科大建築学科の情報発信としてこれからどんどん新しい企画を盛り込んでいく予定です。乞うご期待！

2007年10月20日  
秋号 - Vol.18  
編集：会報部会  
(佐貴大輔・前田智成)

編集委員：有岡三恵・小園涼子・佐貴大輔・周藤正信・高安重一・千葉利彦・前田智成・横山圭（50音順）

## 東京理科大学理工学部建築学科同窓会ネットにご登録下さい！

東京理科大学理工学部建築学科同窓会ネットは、WEBサイト上で様々な情報を発信したりOBの方々や在校生がつながりを持つことが出来るコミュニケーションサイトです。会員登録は無料ですので、是非この機会にご登録下さい！

アクセス先：<http://www.rikadaikenchiku.com>

発行 東京理科大学野田建築会 〒278-8510 千葉県野田市山崎 2641  
<http://www.rikadaikenchiku.com/>  
郵便振替 口座番号 00130-9-27644 東京理科大学野田建築会

